

発掘調査の概要

大官大寺南方の調査(飛鳥藤原第196次)

大官大寺は藤原京左京九条四坊・十条四坊中の6町を占め、百済大寺に起源をもつ官寺です。主要な伽藍の配置や規模はあきらかになっていますが、南門等の堂塔は未確認です。また、主要伽藍から山田道までの南北約450mの地域に関しても、考古学的な調査はほとんど実施されていませんでした。そこで、寺の全容とその南方の様相を解明するため、2017年度から調査を開始しました。

調査は短時間で広範囲の様相を把握することができる地下探査と、実際に地下の詳細な情報を取得することができる試掘調査をあわせておこないました。探査は2018年1・2月に、のべ3日間で約10,000㎡実施し、試掘調査は3月6日から23日まで、45㎡実施しました。調査区は藤原京左京十一條四坊東北坪に位置し、大官大寺の中軸線上で、かつ東四坊坊間路の東側溝が想定される地点です。

残念ながら道路側溝は検出されませんでした。掘立柱建物1棟と掘立柱塀1条等を確認しました。また、調査区の東部では、流路の西岸とみられる、東に向かって下がる旧地形を確認しました。埋立土の中には7世紀後半の土器片が含まれており、その頃にこの旧地形を埋め立てて平坦な地形へと改変していったものと考えられます。

(都城発掘調査部 清野 陽一)



試掘調査区全景(東から)